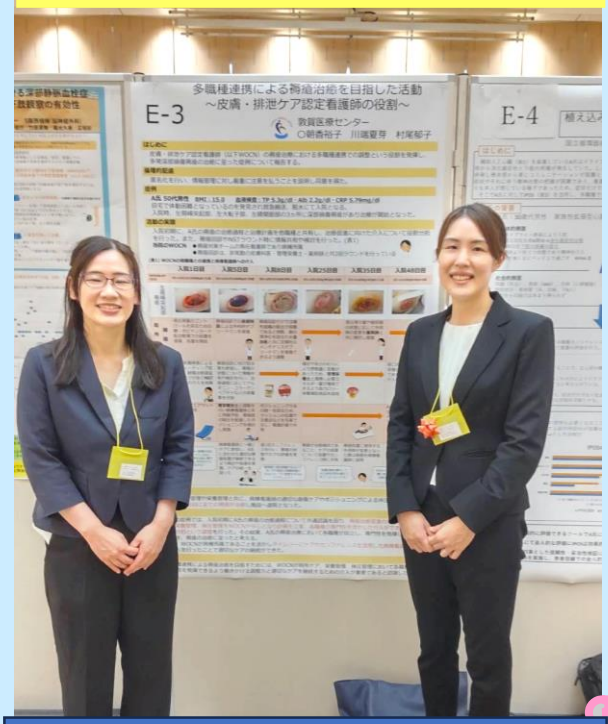
第６５回

近畿地区国立病院看護学会発表に参加しました！

令和５年９月９日
大阪国際交流センター

多職種連携による褥瘡治癒を目指した目指した活動
～皮膚・排泄ケア認定看護師の役割～

〇朝香　裕子（外来副看護師長）



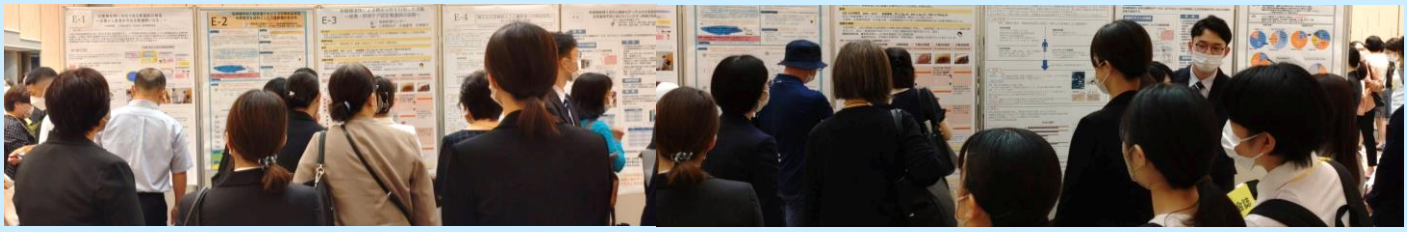
朝香副看護師長：
褥瘡治療における栄養管理・体圧管理・局所管理をWOCN（皮膚・排泄ケア認定看護師）が中心となり計画し、多職種連携と病棟看護師がケアを継続できるような関わりを行ったことで早期治癒に至った症例について発表しました。

呼吸器関連の特定行為研修を終了して１年目の活動報告

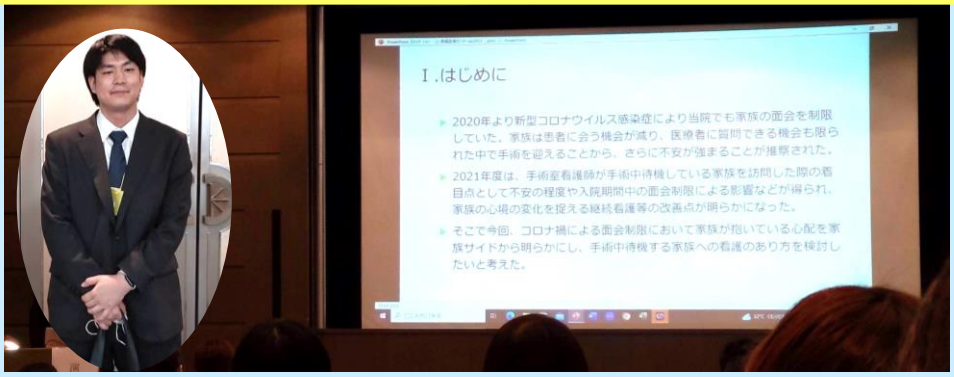
〇坂口真美（特定行為看護師）

特定行為看護師坂口看護師：
特定行為研修を終了し①自身の実践力向上②看護師の呼吸器関連の知識・観察力向上に向けた活動と課題について発表しました。今後は安全・安心・タイムリーな特定行為を実践すること、他職種と協働して重心障がい児（者）病棟を横断的に活動することで患者に質の高い看護を提供したいと思います。

発表ポスターに見入る参加の皆さん。ポスターの前には多くの方が集まっていました。



コロナ禍における手術中待機する家族の心配事
～面会制限されている家族への実態調査を踏まえて～

手術室看護師　高橋侑也

手術室：高橋看護師
コロナ禍による面会制限において家族が抱いている心配を明らかにし、手術中待機する家族への看護のあり方を検討したいと考え家族にアンケートを実施した。コロナ禍で本人に面会できないことで、家族は疾患や退院に関する不安が強まることを知り、知りえた情報の共有の重要性を再認識した。